

代々木ゼミナール

SAPIX YOZEMI GROUP

学校法人高宮学園 代々木ゼミナール

〒151-8559 東京都渋谷区代々木2-25-7 ☎ 03-3379-5221 (代表)
(リクルートサイト) <https://www.yozemi.ac.jp/recruit/>



SAPIX YOZEMI GROUP

代々木ゼミナール

学園案内

ここは若者たちの広場であり、教育の庭である。

教育の庭で、こんなに真剣で逞しいところはない。

そして、ここに集まった若者たちには大きな夢がある。

この夢を育て、これを現実へと結びつける。

これが代々木ゼミナールのレゾン・デートル(存在理由)である。

初代理事長 高宮行男 (1917年~2009年)



SAPIX YOZEMI GROUP 共同代表
学校法人高宮学園 代々木ゼミナール

副理事長 高宮 敏郎

“Ever Onward”

多様性と挑戦を大切にするのが
代々木ゼミナールの文化

代々木ゼミナールは1957年の創立以来、「日日是決戦」と「親身の指導」を校訓に掲げ、全国の受験生に寄り添い、指導してきました。試験テクニックにとどまらない学問の本質を突く講義は、やがて「講師の代ゼミ」という評価を不動のものにしました。

ゼミナールはドイツ語で“seminar”、古くは教義解釈を詳しく教える神学教室を意味し、その後、指導教授による研究会を指す言葉として使われるようになりました。代ゼミでは、各講師が大学教授のようにオリジナルの講座を担当するという予備校業界では画期的なシステムを取り入れ、斬新な校名を名乗ることになったのです。

強烈な個性と情熱で受験生を惹きつけ、その知的欲求を満たす多彩な講義は、今も変わらない代ゼミの伝統です。その一方で、EdTechの先駆けとして積極的に情報技術を取り入れ、1989年には通信衛星による代ゼミサテラインゼミを開始しました。近年では、人工知能で東京大学の入試問題に挑戦する「東ロボくん」プロジェクトに参画し、その成果は現代文における記述式問題のAI採点サービスとして実を結びました。

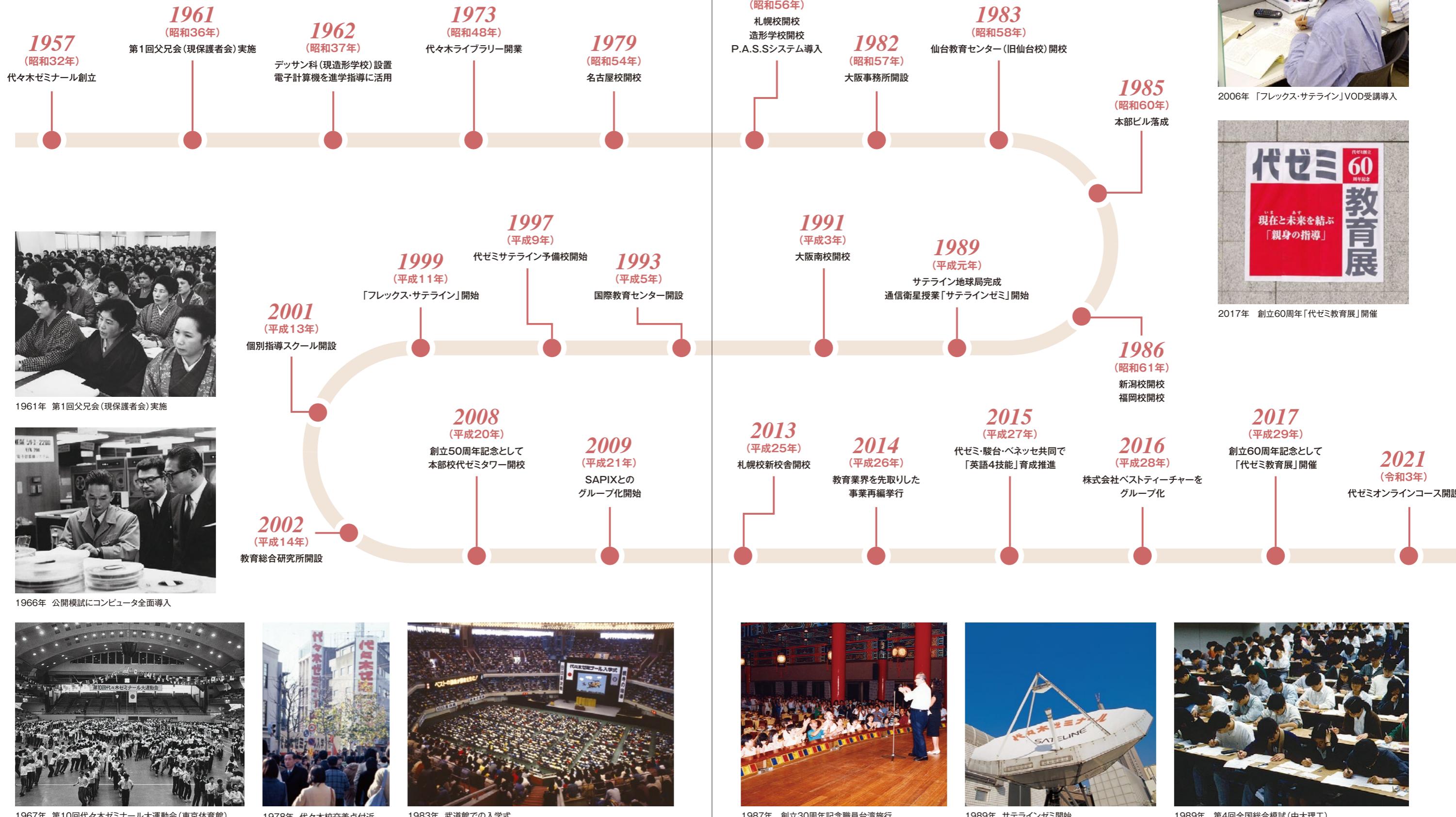
グローバル化やDXなど教育を取り巻く環境は大きく変わろうとしていますが、代ゼミは変わりません。受験生の「志望校が母校になる。」という夢を叶えるために、代ゼミはこれからも、多様性を尊重しながら、挑戦を続けます。皆様とともに新しい教育を創造しましょう!

代々木ゼミナールの歴史

History

私たちは創立以来「親身の指導」を実践し、多くの卒業生を世に送り出してきました。
今後も急速に変化する世の中に柔軟に対応し、新たな挑戦を続けていきます。

さらに詳しい内容は採用サイトをご覧ください。



2025年度入試から 教育を考える

ついに、改訂された学習指導要領に基づく

2025年度新課程入試が始まりました。

注目の入試はどのように変化したのか、

そして今後の動向はどうなっていくのか。

入試情報と教材作成のそれぞれの視点から現状と

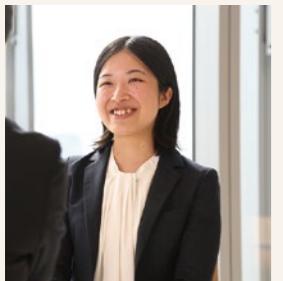
これからについて紐解きます。



土生昌彦

教材研究センター
国語研究室 主幹研究員
1985年入職

入職以来、教材研究センターにてテキストや模擬試験の作成、大学入試問題の分析などに従事。専門は現代文と小論文。帰国生を対象とした授業も担当している。近年はAIを活用した新たな教育コンテンツの開発など、外部機関とのプロジェクトにも多く携わっている。



木戸葵

教育情報センター
教育情報室 室長
2019年入職

新卒入職後、札幌校進学相談室にてクラス担任業務をはじめとする校舎運営業務全般を担当。支局経験後、本部へ異動し現職。教育情報センターにて教育情報・入試情報の収集・分析・発信に従事。全国の高校にて進学講演などを行っています。

詳しい内容は採用サイトをご覧ください ▶



2025年度共通テストの概要と変更点

木戸 2025年度入試では、共通テストの志願者は増えました。これは18歳人口増加に伴っての自然増だと思います。また、引き続き現役生メインの入試でしたので浪人生はますます減っている状況ですね。

共通テストの最大受験科目数は、5教科7科目から6教科8科目に増えました。新設された情報1の平均点は高く、国語も新しく大問が増えたにしては平均点が10点以上あがるという結果でした。国語で新設された第3問も情報1もしっかり読んで冷静に考えれば解ける問題が多い構成になっていたなどという印象です。

土生 私は国語と小論文が専門で、必ずしも全科目の動向を押さえているわけではありませんが、共通テストはおむね事前の予想通りだったと思います。国語の第3問は実用文からの出題ということでしたが、2025年度入試では生徒作成のレポートに基づく問題でした。その表現をどのように修正すればより良い文章になるかということを中心に問われています。以前話題になっていた契約書や法律文からの出題ではなく、受験生も比較的取り組みやすかったのではないかと思います。

また新たに大問が1つ追加されたことで受験生が時間内に解けるかということが気になっていましたが、従来の5択問題から4択問題中心になりました。その分、負担が減り、時間内に解けた受験生が多かったようです。全体的に難易度を含め、初年度は慎重なスタートを切ったという印象であり、来年以降はやや難化するのではないかと予想しています。

木戸 国公立大学については2024年度から志願者が少し増えましたが、これは共通テストの平均点があがったので、強気に出願した人が多かったからだと思います。なかでも公立大学の志願者が増加しました。

新課程で科目が増え、受験生も負担に感じていたと思いますので、2~3科目で受験できる大学がある公立に流れていくという動きがあったのではないかと考察しています。

私立大学も今回受験者が増え話題になりました。私立大学は併願ができるため延べ数にはなりますが、検定料の割引が拡大したり、無料になったりと受験生フレンドリーな変更がいろんな大学であったのも増加した一因です。大学側も定員を満たさないといけないので、どうやって志願者を増やし、入学者を確保しようか試行錯誤しています。

大学入試の現状と今後の予測

木戸 先ほど土生主幹から、次年度は難化が予想されるのではという話がありました。国語でいえばどのような部分で問題を難しくしていくのでしょうか?

土生 選択肢を少し微妙にすると、本文の難易度をあげるとかですかね。第3問でグラフや資料の数を増やすという方法も考えられます。

木戸 複数テキストの問題を国公立大学の2次試験で出題するのは共通テストがそうしているからですか?

土生 共通テスト以前に国際的な学力を測定するテストである「PISA」の影響があると思います。このテストでは表やグラフ、写真や地図などもテキストとして扱っていますので、今の学習指導要領にはこのPISAに対応する学力を養成しようという意図があると考えています。その影響が共通テストにも国公立大学の2次試験や小論文にも表れているということではないでしょうか。

木戸 小論文において英文型の課題が国公立大学で増えているのは、今後日本が国際的に競争できるようにとか、研究するうえでも論文は英語が多いので引用するための力を見たいといった意識が大学にもあって、入試でも問われているように感じる事案ですね。

土生 そうですね。それに加えて実用的な英語の出題が増えているということもいえます。以前のような文学的な評論文は少なくなっています。たとえば、スーパーで食品を買おうとするときに商品にスマホをかざすと、その商品がこの売り場に来るまでにどのくらいのエネルギーとコストを使っているのか表示するようなアプリがあります。それを紹介する英文記事が出題され、その内容を要約するというような問題がありました。現実の社会で英語が使えるかどうかを見る問題が増えているという印象です。英語自体がそれほど難しいわけではないのですが、日頃から社会的な問題に关心を持っているかということもあわせて問われているように思います。

むしろ国語よりも変化が大きいのは地歴公民や英語ではないでしょうか。今の英語の模擬試験では、問題文の内容にあったイラストを選ばせるというような問題が増えています。そのイラストを細かく修正したり、書き直したりという作業があるようで、それを見ていると、問題の作り方もずいぶん変わったなと思います。国語はまだ言葉の世界で収まっているので、他の科目と比べて変化は少ないと思います。また数学や理科では問題文の分量が増えて、読解力がないと対応できないという話をよく聞きます。全体的に国語以外の科目でも国語力が求められる問題が増えているのではないかでしょうか。それにしてもイラストの修正などは傍から見ても大変だなという気がします。

木戸 作問の本質ではない気がしますね…。イラストのことを議論するくらいならもっと本質的なところに時間をかけたらいいのにと思いますが、共通テストにイラストや図などが出てくる以上、教材や模擬試験にそいついた問題をいれるよう配慮しないといけないですね。

共通テストのイラストは毎年話題になりますよね。実は、共通テストの問題評価・分析委員会のコメントで、そういう余計な思考を受験生に強いるような作問はやめてほしいといった意見が出ていたこともあります。

土生 私も以前講師の方とお話したときに、共通テストの問題が本質から少しづれているんじゃないかということを言われたことがあります。現在の傾向は、科目の本質をシンプルに問うという方向から、実用性重視の方向へ変化しつつあるといえるかもしれません。

木戸 大学で求められる学びのスキルは、腰を据えて何か文献を読む、それを理解して他の文献や資料と繋げて自分はどう考えるかを形にしていくことだと思います。そういうスキルを持っているかが従来の入試では試されていましたが、共通テストは短時間でどれだけ情報処理できるかというところが特に重視されているように感じます。大学で研究を遂行できるかをそれだけで測るというのも、また違うのだろうなって気がしますね。

土生 共通テストは高校で学ぶべき基礎的な知識や技能を確認することが目的ですが、現在はそのなかに実用性やリテラシーが入り込んでいるという印象があります。受験生はそれらに対応するトレーニングが大変なんじゃないでしょうか。

木戸 とある大学で基礎学力重視の学校推薦型選抜を始めましたが、それは従来の学校推薦型だと入学者の学力が低かったため、大学に入りたいという熱意と学力をきちんと持っている人を獲得するために始めたとお聞きしました。

文部科学省の入学者選抜実施要項には、「学力を測れるテストをしてください」とあり、それでもまだ測りきれていない入試があって、入学しても勉強についていけないがために休学や中退をする人が出てきています。

大学で学ぶ以上、学力は避けては通れないですし、高校で3年間学んだ成果を発揮できるような入試の仕組みづくりをしてほしいという声は高校の先生方からもあるんですよね。

今すぐに変えることはできないかもしれないですが、もしかすると今後新しい形の入試が生まれてくるのではないかと考えています。

代ゼミの強み

木戸 代ゼミがこれまで積み上げてきたものは必ずこれからも活かされます。新課程になったからといって全てが変わったわけではありません。これまでのノウハウを次の社会にあわせてどう柔軟に組み替えていくかということが大切だと思うので、そういった点ではこの70年程の積み重ねはとても尊いものですし、次世代に繋げていかないといけないと思っています。

過去に行っていた入試方式を改めて復活させるケースもありますし、過去のものが未来にも活用できるということを日々の業務で感じています。

土生 学習指導要領が変わると、変わった部分だけに注目が集まりますが、入試問題を見るとむしろ変わっていない部分のほうが多いんですね。だから過去問の演習は有効なんです。また学習指導要領は約10年に一度改訂されますが、これまで代ゼミは何回もそういう大きな変化に対応してきました。その経験値は今後も大いに活かされると思います。

木戸 その他の点でいえば、代ゼミには教材作成や入試情報などの専門部隊がいるので、内部でも情報収集がすぐにできることが強みです。依頼があれば教育情報センターで専用のデータを作成することもできますし、こう

いった専門家がいる強みを今回の新課程入試において発揮できた気がしますね。

土生 今、中央教育審議会で新しい学習指導要領を作成、検討していますが、新聞報道では大まかな方向性しか分からないので、教育情報センターから流してもらっている情報はとても貴重です。特に審議会や分科会で配布された一次資料を直接目にすることで大変助かっています。そういう一次情報は教材作成に役立つことが多いんです。

木戸 最近は政府の会議や文部科学省の発表をもとに記事を書いて、教育総研のnoteやSNSにアップしています。今の動きはどうなっているのかを機敏にチェックしていくうというのは部内でも共通の認識があるかと思います。

土生 新聞に報道されること、実は二次情報が多く、その過程で失われているものも少なくないんですね。私たち教材を作成する人間は、直接一次情報にアプローチして、そこから教材作成のヒントを得ることが大切だと思います。それが迅速に行えることが代ゼミの利点ではないかと考えています。

木戸 私たちがかみ砕いたらそれはそれで二次情報になってしまいますが、できる限り正しい形で生徒・保護者・高校の先生方に伝えるということは心掛けたいと思います。

活躍する人材に求められるもの

土生 先ほどお話しした、中央教育審議会で作成している論点整理の資料の一部に、今の日本の子どもに足りない要素は何かということを指摘したのがあります。そのなかで「初発の行動を起こす意欲が弱い」、「学びの主体的な調整に課題がある」と書かれています。

1つ目の「初発の行動」とはとりあえずやってみる、チャレンジする意欲が弱いということです。結果がどうなるか、よく分からなければとりあえず行動に移す。これは社会に出てからとても大切な要素だと思います。

そして2つ目の「学びの主体的な調整」、これは自分で学んでいるとき、その方向が正しいか、適切な手順で行っているか自分自身で客観的に知るということですね。そのためには他の人にたずねてみる、対話するということでも重要になります。私はコミュニケーション能力というのは、自分と年齢が離れていたり、性別が異なる人とどのように意思疎通できるかということだと考えているのですが、それを高めたいという意欲を持っている人と一緒に仕事をしたいと思います。

木戸 とても共感できます。何か新しいものを生み出していくないと、この業界で長く続けることは難しいと思います。少子化など様々な課題があるなかで長く続けていくためには、今ある良いところを残しながら、新しいことにして新しい「代ゼミの姿」を作っていくといけないと思うんですね。これから入ってきてくださる方は、新しい代ゼミを作っていく担い手です。なので、とりあえず「何かを成し遂げてみたい」というスタンスの人と一緒に働きたいと思いますし、多少失敗してもその失敗をどう先に活かしていくのかが大切です。「社会貢献はしたいけど、何をやったらいつかからない」という人達も、チャレンジする場所として、ぜひ代ゼミを選んでもらえたと思います。

土生 今若い人を見ていると、社会に参加したいという意欲は以前よりもむしろ高まっているのではないかと感じます。ただし、その一方で自分一人が社会参加しても果たして役に立つんだろうかという不安感も強いようです。でもそれはとりあえず社会で何かを始めてみないことには分からないし、会社で働くことも私は社会参加の一つだと思います。そこで自分なりのやり方で達成感を得れば、それが自信に繋がっていくのではないかと思う。

木戸 コロナ禍もあり、他者と関わりあいながら学ぶ機会が減ったため、「私はできる」といった感覚を学生時代にあまり重ねられなかったというのも関係していますよね。

生徒たち、子どもたちができるだけ希望を持てる社会をこれから作っていくための形づくりができる場所が、予備校であり代ゼミだと思います。ぜひ教育がこれからどうなっていくのかというところも関心を持ち、自分がそれを変えていくと思えるような人と仕事をしたいです。あとは、何か一つの専門にとらわれることなく、様々な興味を持っている人がいてくれたら、とても嬉しいと思います。

1957年の創立以来、長年培ってきた豊富なリソースを活かし「大学受験支援」「教育事業支援」の2つの面で教育を支えています。教育を受けるすべての方たちの夢を応援することが、私たちの使命です。

高校生・高卒生に対する 大学受験 支援

生徒一人ひとりに寄り添い、「親身の指導」を実践。生徒対応をはじめ、入試情報分析や教材研究など、各分野のスペシャリストが志望校合格までをサポートします。

生徒対応(高卒生・高校生)

部署 本科生コース、高校生コース、学務

主な仕事内容 クラス担任、進路相談、入学・受講相談

代ゼミに通っている生徒にはホームルームや定期的な面談、保護者の方にはガイダンスや保護者面談を通して、志望校選びに向けての道筋と一緒に考え、入試情報の発信を行います。

集団授業や個別指導を通して、生徒のニーズに合わせ、入学から志望校合格まで「親身の指導」でサポートします。



授業運営

部署 教務管理、サテライン教育事業、模試運営管理、広報

主な仕事内容 カリキュラムの立案・イベントの企画、映像授業・模擬試験の運営管理、広報企画

生徒を志望校合格に導くためのカリキュラムの立案や地域の特色にあわせた情報を掲載した案内書の作成、模擬試験などイベントの企画・実施のほか、映像授業の制作・配信をします。

また、広告やSNSを通じたPR活動によって代ゼミの魅力を発信し、次年度の生徒募集に繋げています。



営業

部署 高校支援事業、サテライン営業推進

主な仕事内容 高校や教員に向けた支援、入試情報・コンテンツの提供

代ゼミに通う生徒の母校や近隣の高校に訪問し、生徒の近況報告を行ったり、代ゼミのコンテンツ(模擬試験・映像授業など)を提供します。また、全国の塾・予備校に対して、代ゼミサテライン予備校^{*}に加盟してもらうための営業および運営サポートを行い、近くに代ゼミ校舎がない受験生にも代ゼミのコンテンツを届けています。

^{*}代ゼミの映像授業を視聴できるように提携している塾・予備校のこと。



高校・大学・塾・予備校に対する 教育事業 支援

教育業界全体に向けたサポートを行っています。

高校の先生方へ入試情報を提供したり、塾や予備校に映像授業を提供するなど、多方面から教育現場を支えています。

教材研究

部署 教材研究センター 主な仕事内容 テキスト・模擬試験の作成、解答速報、質問対応、教科指導

生徒が使用するテキストや模擬試験の作成・校正・編集を行います。より質の高い教材を提供できるよう、日々入試の出題形式や傾向の分析を行い、入試のシーズンには、入試問題の解答や講評を作成し解答速報としてホームページに掲出します。また、質問対応や答案添削のほか、代ゼミに通う生徒向けに一部授業を実施しています。



情報収集・分析・発信

部署 教育情報センター、教育総合研究所

主な仕事内容 入試情報の収集・分析・発信、講演の実施、外部機関との連携・開発

様々な入試情報の収集・分析を行います。とりまとめた情報は代ゼミ内の進学指導に活用しているほか、高校の生徒や先生方などに向けて発信をしています。また、外部機関と連携した新しいコンテンツの制作や、リカレント教育のニーズに対応した教養講座の企画・開発をして、幅広い世代を対象に、代ゼミが長年培ってきた情報を活かしたコンテンツを提供しています。



法人管理

部署 総務、人事、財務、法務、IT

主な仕事内容 施設管理、人材育成、財務管理、著作権・契約管理、社内システム構築

生徒や職員が過ごしやすい環境づくりを行います。職場環境の整備、学園の財務処理、著作権をはじめとした契約管理、申込システムや社内ネットワーク構築などの業務を担っています。バックオフィスとして必要不可欠なサポートをすることで、学園の運営がより円滑に進むよう基盤を構築します。



福利厚生

代ゼミでは、職員の「働きやすさ」を軸に多様な制度を整えています。



産休・育休取得者の声

産休・育休の取得について

産休・育休を取得している先輩や同僚を目にすると機会が多くつたこともあります。初めから自分が休暇を取得するイメージはしやすかったです。部署のメンバーの協力はもちろん、上司の適切なマネジメントもあり、気持ちよく産休に入れたことを覚えています。復帰のタイミングや休暇明けの時短勤務の要望も、人事部と十分相談できたので、スムーズに復職できました。



仕事と育児の両立について

子どもの急な体調不良で突然休む機会は必ずしも避けられません。1時間単位で取得できる時間休や子の看護等休暇をはじめとした制度としてのサポートはもちろん、部署のメンバーの協力のおかげで無理なく働けています。子どもの成長も仕事も大切にしたい私にとって、職場の空気感・制度は本当に心強く、恵まれていると感じます。

K.G(本部校)

研修

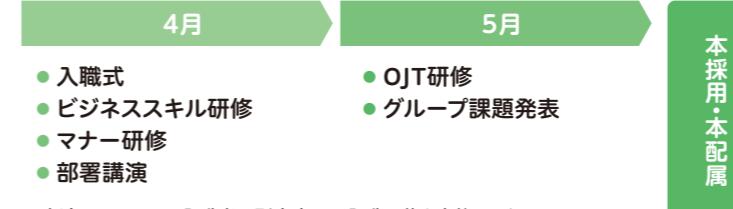
職員の年次やキャリアにあわせた研修を実施します。

また、必要な知識を身につけるため、携わる業務にあわせて内部研修や外部研修があります。

研修だけでなく、普段の業務でも必ず先輩職員や上司がフォローにあたるので、初めての業務でも安心して働くことができます。

新入職員研修(新卒)

入職後は2か月間の新入職員研修を実施します。



※中途、パートタイム入職者は別内容にて入職研修を実施します。



キャリアアップ

キャリアアップにあたり、職員一人ひとりが上司と一緒に1年間の目標を設定し、業務計画を立て、目標達成を目指していきます。年度途中には中間面談を実施し、よりスキルアップするためのアドバイスを受けます。そして1年の終わりに目標に対する達成率の確認を行い、その結果が人事評価に繋がります。普段の業務の合間にも指示を受けたり、フィードバックを受ける機会も多くあり、自身の成長に繋げていくことができる環境です。



数字で見る代ゼミ

年間休日

125
日

時間外労働時間 (月平均)

10
時間未満

有休取得率

81.0
%

育休取得率 (希望者全員取得)

83.3
%

平均年齢

43.9
歳

新卒・中途割合

新卒 51.4%
中途 48.6%

男女比

男 52.9%
女 47.1%

女性管理職の割合

33.8
%

校舎紹介



本部校代ゼミタワー 法人事務局

〒151-8559
東京都渋谷区代々木2-25-7
TEL:03-3379-5221(代表)

新宿駅・代々木駅から徒歩圏内の抜群の立地にそびえるのが、「本部校代ゼミタワー」です。地上26階建ての校舎は、教室や自習室はもちろん、レストランや学生寮も備え、安全性・機能性・快適性を徹底追求した最高の学習環境となっています。また、「ベストの講義」を収録・送信し、全国の代ゼミを結ぶネットワーク「サテライン」の中核としての役割も果たしています。生徒・保護者・講師・職員が一つのチームとして密に連携し、志望校合格という目標を達成するため、「親身の指導」を日々実践しています。なお、全国を管轄する本部部署の事務室も校舎内にあり、校舎運営や生徒の様子を近くに感じながら業務に取り組んでいます。

KEY WORD



- 最高の学習環境を備えた「シンボルタワー」
- 受験のすべてをサポートする「立派な設備」
- サテラインで全国に届ける「ベストの講義」
- ワンチームで受験を支える「親身の指導」
- リアルを常に感じられる「本部機能」



札幌校

〒060-0807
北海道札幌市北区北7条西2-5
TEL:011-758-1212

1981年に開校した札幌校は、40年以上にわたり大学受験に精通した指導を行い、毎年多くの合格者を輩出しています。また、地元で必要とされる教育ニーズを察知し、様々なコンテンツやサービスを提供し続けています。志望校を目指す受験生とその保護者および高校の先生方にとって、北海道で頼れる教育機関でありたいという想いで日々の校舎運営を行っています。

2013年には校舎を新設して、ハード面でも快適な環境を準備しました。札幌校は仕事やプライベートを充実させながら、職員同士が互いに助け合い、成長し合える場所でありたいと考えています。教育への想いを持ちながら、自分らしい働き方を実現したい方をお待ちしています。

KEY WORD



- 北海道トップクラスの合格実績
- 教育事情に精通した多才な人材が活躍
- 幅広い校務により成長の機会が多数存在
- 札幌駅から徒歩1分の好立地
- ワークライフバランス重視派



新潟校

〒950-0901
新潟県新潟市中央区弁天1-4-18
TEL:025-243-8811

1986年に開校した新潟校は、JR新潟駅から徒歩圏内に位置し、通学・通勤に便利な立地です。教室や自習室、隣接した学生寮により、学習に集中できる環境が整っています。新潟大対策のコースや講座、イベントを設置しており、地域に根ざした教育活動を行っています。

職場の雰囲気は明るく、ニーズに即したイベント・講座は何なのか、変化の激しい教育業界においてどのような取り組みができるのか、地域の教育のために何ができるのか、時には意見をぶつけ合いながら、日々切磋琢磨しています。

新潟県で唯一の予備校として、職員と講師、さらには学生アルバイトも含め、全員が一丸となって受験生の夢を後押ししています。

KEY WORD



- 新潟駅のすぐそば、県内唯一の大手予備校
- 新潟でも東京と同じ水準の教育を提供
- 生徒対応に加えて様々な業務を経験できる
- 若い職員が多く、意見が通りやすい
- 仕事とプライベートのメリハリ



名古屋校

〒453-0014
愛知県名古屋市中村区則武1-5-7
TEL:052-452-8171

名古屋校は1979年に全国初の地方校舎として開校しました。個性豊かな講師と学問の本質に迫る授業は代ゼミの真髄であり、その価値は今なお褪せることはありません。一方で、入試を取り巻く環境の変化や顧客ニーズの多様化にあわせ、名古屋校は常に進化を続けてきました。たとえば、増加傾向にある特別選抜のコースを新設したり、独自の添削課題や確認テストの導入によるカリキュラムの充実化を図ったりしています。また、サポート領域は校舎内にとどまらず、高校に講師を派遣して授業や教員研修を行う高校支援にも取り組んでいます。生徒一人ひとりの伴走者であることはもちろん、教育業界のトップランナーとして、代ゼミ名古屋校は走り続けます。

KEY WORD



- 生徒や講師との距離が近いコンパクトな校舎
- 実力派講師陣の目が行き届く少人数制授業
- 切磋琢磨して指導力を磨き続けるクラス担任
- 高校教員を支援する豊富なリソースと提案力
- 常識を疑い変化を楽しむ自由闊達な風土



大阪南校

〒556-0016
大阪府大阪市浪速区元町1-2-3
TEL:06-6634-7111

1991年に開校した大阪南校は、JR・大阪メトロ・近鉄・南海・阪神電車が集まる一大ターミナル「なんば」に位置しています。メインである高卒生向けの本科生コースに加え、現役生向けの高校生コースや帰国生専門の国際教育センターも設置され、多様な生徒がそれぞれの目標に向かって日々努力しています。また、教材研究室があるのも特長で、各教科のスペシャリストが常駐し、講師や職員と連携しながら生徒の学びを支えています。

職員同士の距離が近く、些細なことでも相談し合える環境に加えて、生徒と職員との距離も近く、小さな変化に気づき、悩みや不安を共に乗り越える“面倒見の良さ”が根付いています。大阪という土地柄にふさわしい、温かさと活気にあふれた校舎です。

KEY WORD



- 他の追随を許さない親身の指導
- 関西を知り尽くした精鋭講師陣
- 関西有数の一大ターミナル駅という好立地
- 幅広いバックグラウンドの生徒と関わる
- 圧倒的プロフェッショナル集団



福岡校

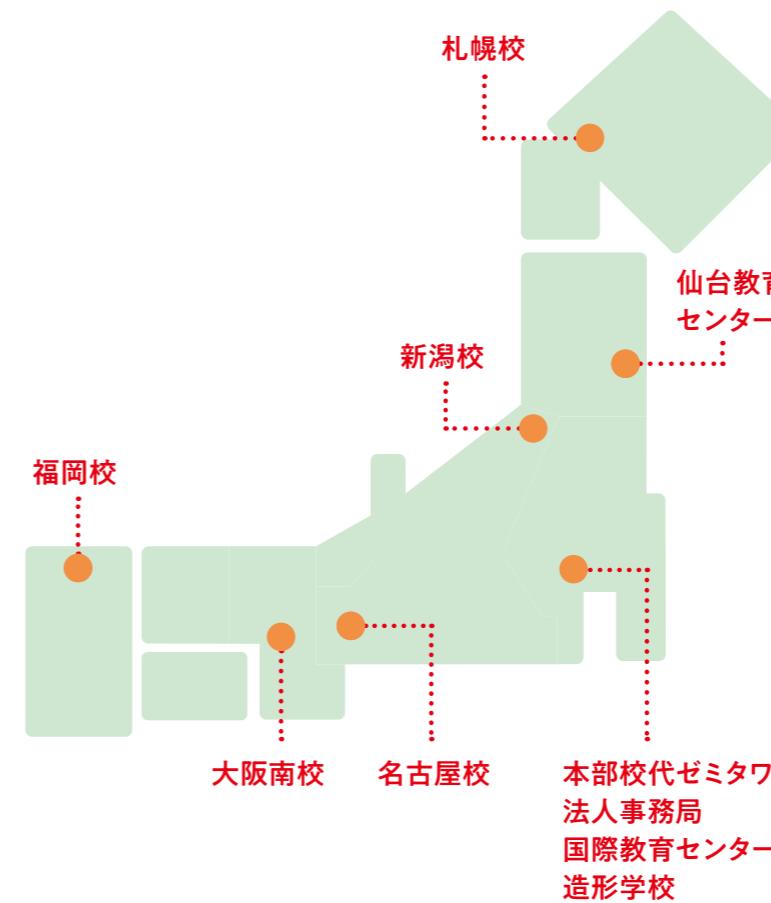
〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前4-2-25
TEL:092-472-6721

1986年に博多駅前に開校した福岡校は、九州の受験生とその保護者、高校の先生方にとって、最も信頼される教育機関を目指して、日々の校舎運営に取り組んでいます。

校舎独自の講座や企画も積極的に実施し、より多くの高校生・高卒生に、代ゼミのコンテンツを使ってもらえるよう、日々試行錯誤を重ねているところです。運営の中核を担うのは20代・30代の若手職員、それを支えるのが中堅・ベテランの職員で、明るく活気あふれる雰囲気といえます。生徒たちの夢を実現へと結びつけるため、職員一人ひとりが自身の経験と個性を活かし、一丸となって業務にあたっています。



- 明るく活気あふれる雰囲気
- 一人ひとりの個性と経験を活かす
- 世代を超えたチームワーク
- 新しいことにチャレンジ
- 目標に向かって団結



国際教育センター

〒151-8559
東京都渋谷区代々木2-25-7
TEL:03-3379-5221(代表)



造形学校

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-62-3
TEL:03-3405-4751



仙台教育センター

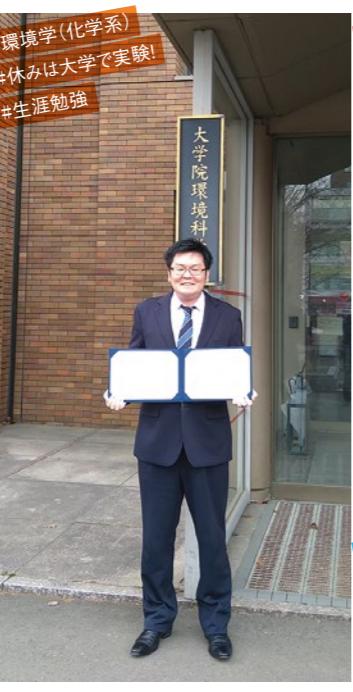
〒980-0014
宮城県仙台市青葉区本町2-1-1
安藤本町ビル7F
TEL:022-721-0755

School Campuses

Staff Holidays

～職員の休日～

仕事もプライベートも全力投球! ワークライフバランスを大切にする職員の休日の様子をどうぞ!



J.K (名古屋校)

A.Y (新潟校)

R.T (本部校)

SAPIX YOZEMI GROUP

代々木ゼミナール

SAPIX 小学部

SAPIX 中学部

SAPIX
INTERNATIONAL

Y-SAPIX
受験

YGC
Y-SAPIX GLOBAL CAMPUS

SAPIX English

PRIVATO

VERTICE

PIGMA KIDS CLUB

PIGMA kids
Supported by こども会

SAPIX kids

代ゼミサテライン予備校 代々木ゼミナール造形学校 代ゼミ個別指導スクール

Best Teacher
「書いて、話す」オンライン英会話

あそびや
発達支援サービス

Triple Alpha

学園概要

学園名: 学校法人 高宮学園

代表者: 理事長 高宮英郎

学園所在地: 東京都渋谷区代々木2-25-7

事業内容: 高校生・高卒生への大学受験支援

創立: 1957年(昭和32年)

高校・大学・塾・予備校への教育事業支援

制作・発行: 学校法人高宮学園 代々木ゼミナール

人事部 人事採用室

発行日: 2025年12月1日